

学報

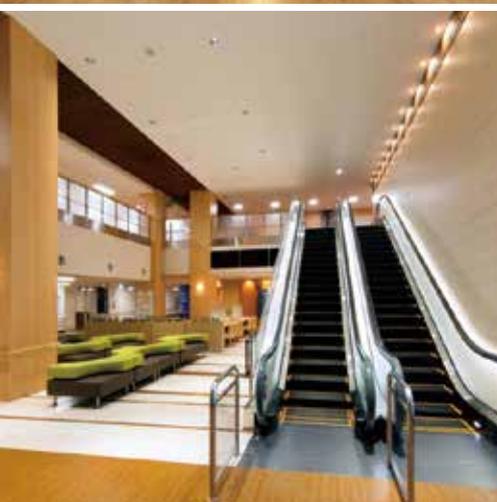
NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **61** 2017 August

Special Feature

理事長・学長からの
メッセージ vol.4

平成28年度
公立大学法人奈良県立医科大学決算



Contents

特集

理事長・学長からのメッセージ vol.4	3
平成 28 年度 公立大学法人奈良県立医科大学決算	5
MBT 研究所だより	6
図書館だより	7
E 棟部門紹介 E 棟 6 階北 (婦人科・産科)	8
留学生紹介	8
看護教育研修を行っています	9
看護師の特定行為研修を行っています	9

Campus News

新入生オリエンテーションを行いました	10
奈良臨床漢方医学セミナーを開催しました	10
奈良県立医科大学・同志社女子大学学術交流に関する包括協定に基づく講演会を開催しました	10
大学院看護学研究科のオープンキャンパス 2017 を開催しました	11
BIO tech 2017 内アカデミックフォーラムに出展しました	11
同志社女子大学と共催で院内コンサートを開催しました	11
関西 ICT イノベーションプロジェクト 2017 で SCOPE 研究成果を発表しました	11

Winner Report

看護功労者知事表彰	12
第 24 回中島佐一学術研究奨励賞の授賞式が行われました	12
第 6 回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞について	12
平成 29 年度 厳禰学術奨励賞の表彰式が行われました	12
平成 29 年度 (第 1 回) 若手研究者国際学会発表助成事業助成者決定	12
特別共同研究助成事業及び若手研究者研究助成事業が採択されました	13
第 216 回日本内科学会近畿地方会で若手奨励賞 (優秀演題賞) を受賞しました	13
外科マスターの称号が付与されました	13
平成 29 年度 文部科学省科学研究費助成事業の決定	14

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました	18
平成 28 年度「未来への飛躍基金」の実績報告について	18

Information

大学院入試日程	19
公開講座情報	19
メディア掲載情報／編集後記	20

理事長・学長からのメッセージ vol.4

今回は、2つのトピックスを取りあげます。

理事長・学長 細井 裕司

I. 奈良医大はどのような大学を目指すべきか。

前号において、上記テーマで、皆さんのお考えをお聞かせ下さいとお願いましたところ、多くのご意見を頂き誠に有難うございました。「奈良医大を、奈良県限定の大学ではなく、全国的にも存在感のある大学にする。」というビジョンとその実現のための方策につきましても、多くの応援メッセージを頂戴致しました。

しかし一方で、反対のご意見も頂きました。その中には、まだまだ私の説明が十分ではなかったと反省させられるものもありました。ここでは、主要な以下の2点に関するご意見に対して、説明を補足させて頂きたいと思えます。なお今後種々の事業を進めるためには、多くの方々とのビジョンを共有できることが重要と考えております。その意味から、今後も学内のみならず、多くの方々からのご意見を頂ければ幸いです。

1. 新キャンパスに反対

【反対理由】 キャンパスが2つに分かれると不便である。

【補足説明1】

確かに、不便が生じることもあるかと思えます。しかし、その短所を補うに余りあるメリットがあると考えています。私は本学で学び医師となりましたが、狭い敷地につきはぎで建てられた建物が林立する現キャンパスの学園環境を、良いとは思っていませんでした。10年、20年先の奈良医大の将来を見据えた時に、現キャンパスのまま、本当に良いのでしょうか？優秀な人材を集め、良き医療人を育成し、最先端の研究を行うための環境を整備するためには、現在の敷地では明らかに手狭であり、限界があると思っています。後に続く後輩のためにも、緑に溢れ、景観にも優れた、教育・研究環境の整ったキャンパスを整備したいと考えています。

【補足説明2】

私は行政との良好な関係を築くように努力をして参りました。特に県知事には、定例面談の機会を特別に設けて頂いております。大学の発展が、県民の健康・福祉に大きく貢献するだけでなく、県南部の経済活性化にとっても、重要である事を理解して頂くことは大変重要です。現キャンパス内での施設整備等に関しては、医大負担が約40%ですが、新キャンパス建設においては、医大の負担は殆どありません。県に深い理解を頂いている今こそ、奈良医大の将来のためにも是非とも新キャンパスの建設を実行して頂きたいと考えております。

2. MBTに反対

【反対理由】 医療者が、なぜ産業創生、地方創生、少子超高齢社会のまちづくりに関与しなければならないのか。

【補足説明1】

MBE (Medicine-Based Engineering、医学を基礎とする工学) は、医学を基礎として、工学・産業を発展させようとする考え方であり、MBT (Medicine-Based Town、医学を基礎と

するまちづくり) はMBEを応用し、まちづくりに発展させるものです。この2つを統合してMBTと称しています。

「産業創生」、「地方創生」、「少子超高齢社会への対策」は、政府だけでなく、日本人個々が考えなければならない課題です。MBTでは、これらの課題の解決に、今まで使われてこなかった我々医療者の力を活用します。奈良医大発のMBT構想を推進することにより、奈良医大の存在感を全国的に高め、中央省庁からの大型研究費の獲得にも貢献できると考えています。

【補足説明2】

戦後も続く序列である「旧帝大」に代わり、実力を反映した「指定国立大学」が新たなブランドになると言われています。「文科省は6月30日、子会社を使った事業展開や高い能力を持つ教授の好待遇での招聘などが可能となる指定国立大学に東大、京大、東北大の3大学を指定した。東大は不動産の貸し付けなど100億円程度の自己財源を作る目標を掲げる。」との報道がありました。奈良医大は国立ではありませんが、このような国の施策の方向性を読み取ることは、本学の発展に極めて重要であります。国公私立にかかわらず、大学が産学連携や民間活力の導入といった側面からも評価をされる時代になったと言えます。MBT構想の推進は、奈良医大の産学連携や民間活力導入を飛躍的に向上させるものと期待しています。

【補足説明3】

製薬企業等からの奨学寄附金が、将来にわたって安定して確保できるかどうか不透明な時代を迎えております。従って、一般企業や国に対して、大学自身の斬新で積極的なアイデアの発信や行動 (MBT構想や寄附金制度の設立等) が今後も不可欠であると考えています。現在、奈良医大と共にMBT活動を行うMBTコンソーシアムの参加企業は90社を超えており、既に、いくつかの教室がMBTコンソーシアム参加企業との共同研究を進めております。今後さらに多くの教室が、それぞれの特色を生かしてMBT活動に参画し、人材や資金の確保をして頂きたいと期待しています。奈良医大MBT研究所は、各教室と企業をつなぐ窓口の役割も担っておりますので、ご質問、ご意見等がございましたら遠慮なくお問い合わせ下さい。

II. 国内トップレベルの独創的な医科大学を目指して、準備を着々と進めています。

奈良医大が日本において、存在価値のある、独創的な医科大学となるためには、優秀で多様な人材の確保と共に、教育、研究環境の整備が重要と考えています。奈良医大に集うすべての人材を活用し、教育、研究、診療、様々な分野で国内トップレベルをめざします。

1. 教育について

学部生に関しましては、高い学習能力を備えた学生を確保することができています。表1にその一端を示します。奈良

理事長・学長からのメッセージ vol.4

医大に入学した全学生に、豊かな人間性と旺盛な科学的探求心を育むことを目指し、全国に誇れる「奈良医大教育改革2015」を医学部長の下に実行に移しています。世界のグローバル化に対応するため、英語教育を推進し、海外を含む有名大学や研究機関で学生が学べる制度も開始しました。実践的な医学教育への取り組みを拡大させ、誠実で柔軟性と応用力に富む、立派な医療人を育成するため、教員の能力開発のための環境整備にも取り組んでいます。

2. 研究について

実績に基づく講座研究費の配分方法を確立し、民間URAによる科研費提出書類添削料助成事業を推進する等、研究支援体制を充実させ、外部資金の獲得に努めて参りました。表2に示しますように、奈良医大の科学研究費の採択件数・金額は、年々増加を続けています。学内で講座・専門領域の枠組みを越えた横断的な研究を活性化させると同時に、けいはんなRC等、学外機関との共同研究も進め、国内各地の著名な医療関連機関に連携施設の設置を進めています。(例：国立循環器病研究センター内連携大学院)

3. 医療について

奈良県内唯一の特定機能病院として高度医療・先端医療を推進すると同時に、奈良県民を守る「最終ディフェンスライン」としてER救急の整備を進めて参りました。「医療の質を上げな

がら、経営状況を改善する。」という難しい課題に挑戦しています。その結果、表3に示しますように、附属病院の収益は、年々増加しています。これは病院長の下、全職員が協力し取り組んできた結果であると深く感謝をしています。一方で、日々、難しい業務に携わっている職員の勤務環境を少しでも改善したいと考えて参りました。夏季休暇の取得期間や取得対象者を拡大し、有給休暇取得推進、時間外勤務の削減に向けての取組、育児や介護等の短時間勤務制度拡充、なかよし保育園の増設、医員及び臨床研修医に関する就業規則の改定(年休取得要件の緩和、夏季休暇、傷病特休、子の看護休暇及び介護休暇を付与)を実現して参りました。質の高い医療と医療現場の新たな働き方の実現を目指して、検討を進めていきたいと考えています。

今後も、県との良好な関係を維持し、新キャンパスの建設、現キャンパスの整備を早急に行い、緑豊かな最先端の教育・研究環境を是非とも実現させたいと考えています。奈良医大がこのチャンスを生かし、奈良県限定の大学ではなく、国家的にも存在感のあるトップレベルの医科大学を目指し、私もより一層、誠心誠意努力をして参る所存です。将来的には、奈良県橿原の地が、世界最高水準の医療を提供するアジアの一大医療拠点となることも決して夢ではありません。私のビジョンと戦略を多くの方々に共有して頂けましたら幸いです。

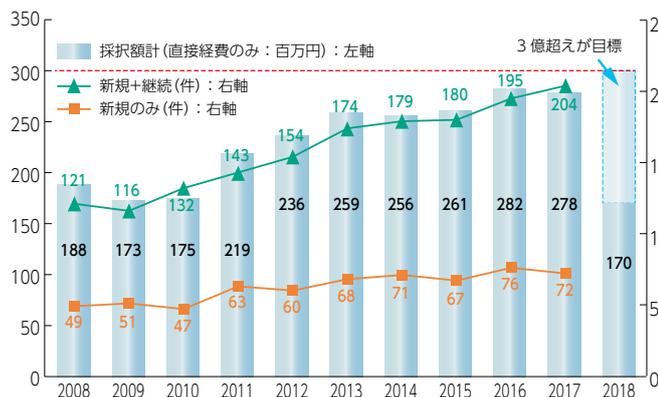
表1. 2017年度入試難易度(河合塾のデータより)

国公立大学の理科系全学部を通じて二次試験の偏差値が72.5以上は東大理Ⅲ、京大医学部と奈良医大のみ

大学名	日程	センター試験得点率		二次試験偏差値
		ボーダーライン (%)	第1段階選抜 (%)	ボーダーライン
東京大学 理科Ⅲ類	前期	94	77	72.5
京都大学 医学部	前期	91	70	72.5
大阪大学 医学部	前期	90	80	70
奈良県立医科大学	前期 22名	89	—	70
	後期 53名	92	86	72.5
東京大学 理科Ⅰ類	前期	90	74	67.5
東京大学 理科Ⅱ類	前期	90	78	67.5

※ ボーダーラインは合格可能性50%を示す。

表2. 奈良医大の科学研究費の採択件数・金額



グラフで見る本学の科学研究費獲得の動向P3より

表3. 附属病院収益の推移

単位：億円



平成28年度 公立大学法人奈良県立医科大学決算

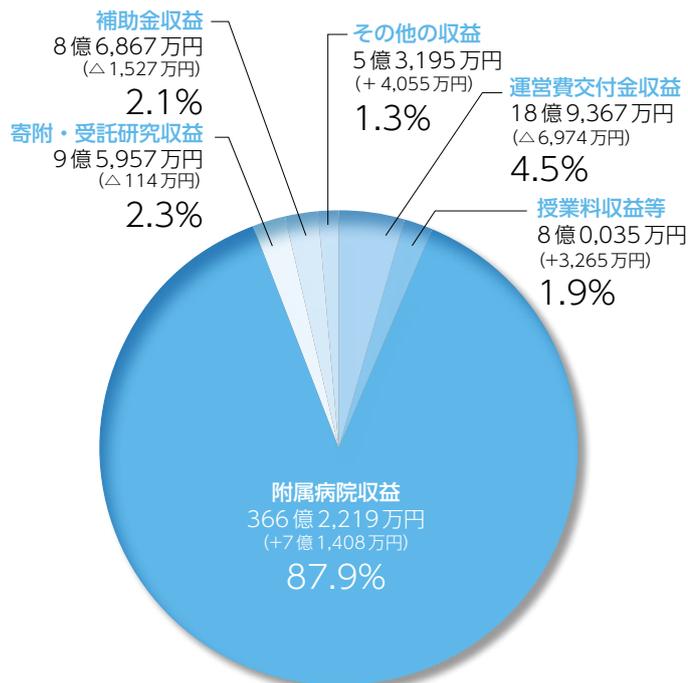
平成28年度決算 収益 / 416億7,641万円(+7億0,113万円) 費用 / 428億4,751万円(+20億6,193万円)

差引 11億7,110万円の赤字 (H27 1億8,970万円の黒字)

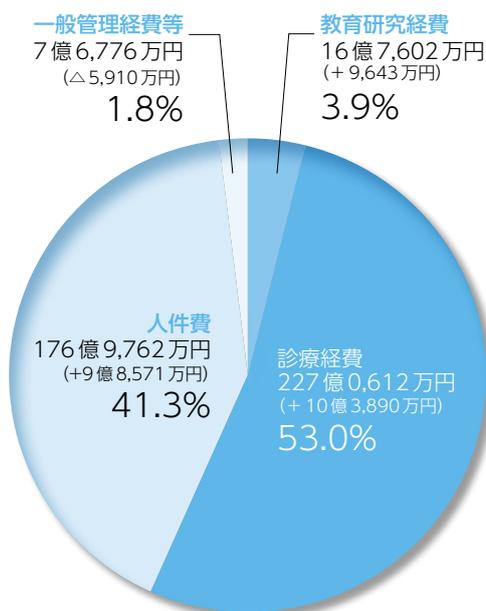
※ () 内は前年との増減額

平成28年度は附属病院E病棟の供用開始による診療経費や減価償却費等の増加、人員増等による人件費の大幅な増加などにより、11億7,110万円の赤字決算となり、前年度(1億8,970万円の黒字)より収支が悪化しました。

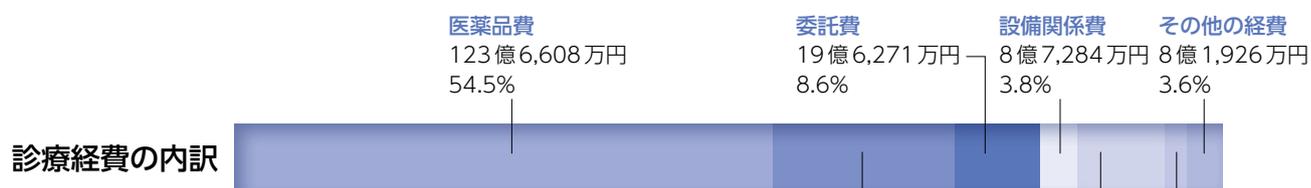
今後、E病棟にかかる減価償却費やキャンパス移転に伴う施設整備経費の増加など、経営状況が厳しくなることが見込まれますので、皆さんには経費節減など経営改善に向けた取り組みへのご協力を引き続きよろしくお願いいたします。



収 益



費 用



MBT研究所だより

1. MBTの主要な動き

(1) MBT相談対応体制の整備

MBTコンソーシアム参加企業が増加するとともに、MBT関連の相談案件が急増してきました。また、学内におけるMBT関連案件のフォローアップも重要となってきております。MBTでは企業からの相談に対し、複数分野にわたる医師・研究者の対応をも想定しており、協力の進捗に応じた分野横断的・機動的な対応体制の構築が必要です。このため、担当の医師・研究者等(以下「担当教授等」という。)を機動的に決定していくために、企業と担当教授等を仲介するMediator教授制度を導入しました。

現在、以下の方々にMediator教授になって頂いております。

古家仁病院長、車谷典男医学部長、嶋緑倫研究部長、酒井宏水教養教育部長、吉栖正典基礎教育部長、吉川公彦臨床教育部長、石澤美保子看護教育部長

MBTコンソーシアム参加企業からMBT研究所に医師・研究者の紹介希望があった場合には、MBT研究所はMediator教授と相談して担当教授等の候補者を決定します。担当教授等はMBT研究所に進捗状況を報告し、MBT研究所からMediator教授に進捗状況を報告することにより、機動的な対応を可能としております。

(2) MBT学開講

本年4月、大学院医学研究科医科学専攻に世界で初めてとなるMBT学の科目を開講しました。梅田智広研究教授、仲川孝彦研究教授が研究指導教員となり、今年度は博士課程学生1名が入学し、勉学に勤しんでおります。

術イノベーション政策を担当され、本学の業務と関連深い方です。内閣総理大臣補佐官は現在5名任命されておりますが、うち3名は国会議員であり、官邸で実務を取り仕切っているのは行政官である和泉補佐官と長谷川榮一補佐官の2人だと言われております。和泉補佐官は平成25年1月から現職にあり、第2次安倍政権を支えた立役者の一人です。官邸でも面会をすることが難しい和泉補佐官に檀原の地に足を運んで頂けたのは、中央のMBTに対する関心の現れと考えられます。



和泉補佐官と大坪参事官



和泉補佐官に説明する細井学長

(2) 結城 JSTリサーチコンプレックス推進プログラム

プログラムオフィサーご視察

平成29年7月6日、結城章夫JSTリサーチコンプレックス推進プログラムプログラムオフィサー他7名の方がけいはんなリサーチコンプレックス(RC)を視察されました。けいはんなRCは細井学長がオーガナイザーを務めていること、MBTを出口戦略となっていること、本学のMBT関連課題が盛り込まれていることなどMBTと深く関連した事業です。

結城プログラムオフィサーは平成17年1月～平成19年7月文部科学事務次官、平成19年9月～平成26年3月山形大学学長を歴任されています。

当日は、細井学長を含めたけいはんなRCのメンバーとの意見交換などが行われ、細井学長からMBTについての説明もなされました。



結城POと細井学長



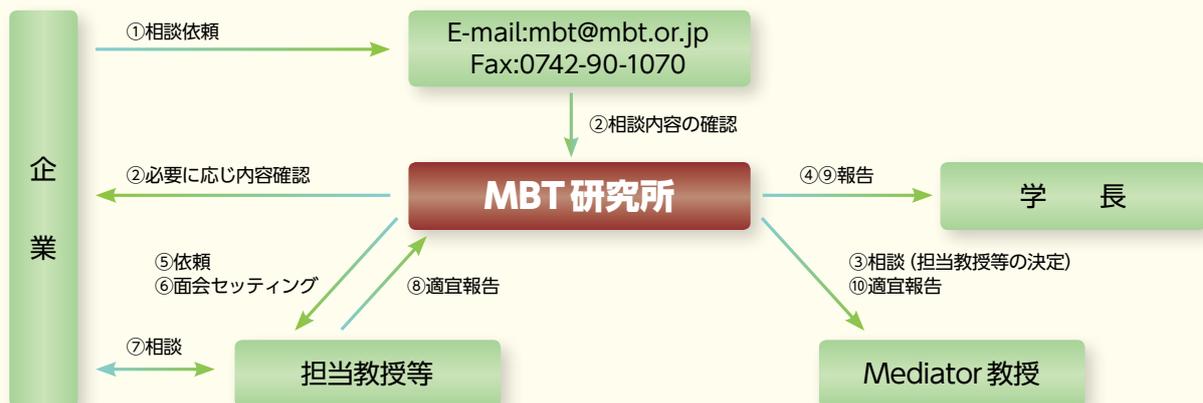
結城POに説明する細井学長

2. MBTの普及

(1) 和泉首相補佐官ご視察

平成29年5月19日、和泉洋人内閣総理大臣補佐官と大坪寛子内閣府国立研究開発法人日本医療研究開発機構担当室参事官が今井町等の視察の後、本学に來学され、細井学長がMBTの説明を行いました。和泉補佐官は国土強靱化及び復興等の社会資本整備、地方創生、健康・医療に関する成長戦略並びに科学技

MBT相談対応体制



リモートアクセス～自宅PCやスマホからも利用できるツール～

電子化されている図書館資料が増え、日常的に電子ジャーナルや電子ブックなどの電子資料を利用されている方も多いと思います。多くの電子資料は学内ネットワークからしかアクセスできませんが、中には登録すると学外からも利用できるツールがあります。今回はそのようなツールをご紹介します。

ツール	概要	オフライン	携帯アプリ	アクセス
UpToDate 	診療の際、医師が遭遇する疑問に即座に実用的な回答を得られるようデザインされた電子臨床医学教科書。 ※学内ネットワークから初回登録 ※4ヶ月に1回学内ネットワークからのログイン必要	×	○	図書館ホーム> オンラインリソース > EBM 実践支援ツール
DynaMed Plus 	ポイント・オブ・ケアでの利用を目的に医師により開発された「医師による、医師のための」臨床系リファレンス・ツール。毎日更新。 ※ID/PW方式、ID/PWは図書館HP参照(表示は学内限定) ※学内ネットワークからアプリのダウンロード	○	○	
Visible Body 	ヒト全身の解剖学と生理学を網羅する3D人体解剖学習リソース。動画や自習テストなど様々なコンテンツを含んでいる。 ※学内ネットワークからアプリダウンロード ※30日以内に学内ネットワークからアプリ立ち上げ必要	○	○	図書館ホーム> オンラインリソース > 研究・学習支援ツール
EndNote basic 	Web版の文献管理ツール。検索した論文で引用されている参考文献の管理と必要なフォーマットでの利用に役立てることができる。 ※学内ネットワークから初回登録	×	×	
USMLE Easy 	12,000以上の問題を収録した米国医師国家試験(USMLE)の対策ツール。各設問の詳細な解説、解答があるほか、出題形式のカスタマイズや模擬試験モードがある。 ※学内ネットワークから初回登録	×	×	
Maruzen eBook Library 	丸善雄松堂が提供するプラットフォーム上で閲覧する電子ブック。一度に60ページまでダウンロード可能。 〈購入タイトル一例〉内科学(朝倉書店) / 完全病理学各論(学際企画) / 新・病態生理できた内科学(医学教育出版社) / がん看護実践シリーズ(メヂカルフレンド社) / 看護実践のための根拠がわかるシリーズ(メヂカルフレンド社) / 写真でわかるシリーズ(インターメディカ) / その他多数 ※学内ネットワークから初回登録 ※アカウント有効期限は90日	△ (PDF)	×	図書館ホーム> オンラインリソース > 出版社サイト

登録方法は図書館ホームページよりご確認ください(表のアクセス方法またはQRコード参照)。登録は学内ネットワークからとなりますが、一度登録するとご自宅のPCやスマホ・タブレット等の携帯端末でご利用いただけます。学習や研究にとっても便利なりモートアクセス、ぜひご活用ください。ご不明な点がございましたら図書館の鈴木・大瀬戸までお尋ねください。

E棟部門紹介

E棟6階北(婦人科・産科)

E棟6階北病棟は婦人科と産科(22週未満)病棟です。病床数は35床、うち個室が5床です。産婦人科外来とリンパ浮腫外来が統合し継続したケアが提供できるようにスタッフ同士協力して頑張っています。

入院患者は子宮筋腫、子宮癌、卵巣癌等で手術を受けられる方が大半です。また、化学療法、放射線療法(外照射、子宮腔内照射)を受けられる方も多く、化学療法は外来通院や短期入院も可能で短期間の入院を繰り返される方も多くなっています。ターミナル期患者の受け入れも多く緩和ケアチームとの連携により苦痛の軽減に努め、患者を支える家族のケアも行っています。



E棟6階北スタッフ1



E棟6階北スタッフ2

す。ご本人、ご家族の意向により、可能な場合は地域医療連携室の協力を経て在宅医療へ移行の援助を行っています。

婦人科では思春期・成熟期・更年期・老年期に至る女性性器の疾患を対象としているため、社会的・家庭的役割等をふまえながらの援助が必要とされます。同じ女性でも家庭の主婦・職業婦人・未婚など様々な方がおられ、疾患に対する身体的苦痛、不安、恐怖、家庭的・経済的な心配など様々な問題を抱えられています。治療期間が長期に亘ることや化学療法の副作用である脱毛、術後の後遺症(更年期障害、排尿障害)生殖器摘出による精神的苦痛(子どもが出来ない、夫婦生活への不安など)を理解し前向きに治療を受けて頂けるよう援助を行っています。

最近では、遺伝性乳癌卵巣癌症候群(HBOC)診療にも関わっており、遺伝子カウンセリングにも参加しています。

スタッフはみんな明るく笑顔の絶えない病棟です。他科を経験しているスタッフも多く様々な知識を共有しながら日々看護を行っています。



E棟6階北病棟入り口



E棟6階北スタッフ3

留学生紹介

My name is Atitaya SOOKKASEM, currently a postdoctoral researcher at Institute of Biomedical Engineering, Faculty of Medicine, Prince of Songkla University, Thailand. My research fields are targeted drug delivery system and artificial blood replacement (plasma expander). Now, I have an occasion to enhance knowledge and experience for 2 months about animal experiments at Department of Chemistry, Nara Medical University.

The stay in Japan has provided the wonderful time for me. Japanese people are very friendly and kind. The diversity of places in Kansai is very interesting and

beautiful, and they make me amazed. This is my first time to visit Japan and I do not understand Japanese language but that is not a problem to communicate and live in Japan. I would like to thank you very much for making me enjoy while I stay in Japan.

In addition, I would like to thank Prof. SAKAI and his colleagues for helping me everything.

Atitaya SOOKKASEM, Ph.D.



看護教育研修を行っています

平成26年に、第一期中期計画に基づき開設された看護実践・キャリア支援センターは、今年で4年目を迎えます。附属病院看護部と医学部看護学科とが協同して、学生教育から看護職者へのつながりのあるキャリア支援をめざして、下記の事業を行っています。

1. 看護基礎教育としては、看護学科生へのキャリアデザインプログラムや、卒業前の看護学科生への基本的看護技術トレーニング、附属病院の臨床実習指導者研修などがあり、今年度からは新しく上級臨床指導者育成プログラムが実施されています。

2. 看護実践教育としては、看護師への心理的ケア技術等向上の支援として、「対人援助技術の基礎知識・技術」研修や、看護職員と看護学科教員を対象にした「発達障害をもつ人への理解と対応」研修、育児休業者への復職支援プログラムの実施、また離職予防として「音楽療法」や、専門・認定看護師等資格取得への動機付けのための報告会などを実施しています。また、平成28年度より、特定行為研修（急性期コース）が開始されています。

看護部の院内教育については、看護部が示す期待する看護師像をめざして企画しています。「主体的に学び自己研鑽できる」を願いに急変時対応研修を行い「後輩・学生の育成に貢献できる」を願いに教育力の育成研修を行っています。他には看護倫理研修、ヘルスアセスメント研修などがあり看護の学びを支え続ける為の研修を企画しています。

3. 研究支援・実践としては、看護師と看護学科教員の共同研究のコーディネートや、看護部看護師の研究活動の推進として、看護学科教員の研究支援により、研究の成果が発表されているところです。

4. 地域貢献としては、専門看護領域の研修開催を行っており、奈良県内の病院や訪問看護ステーションからも多数受講され、今年度は「認知症予防および認知症を持つ患者への対応力向上研修」、「明日から使える褥瘡予防・治療の知識と技術研修」、「がん看護 コミュニケーション研修」、「がん化学療法看護研修」、「摂食嚥下障害看護研修」を予定し、ホームページにて案内しています。

また、チェンマイ大学との学術協定に基づく国際交流として、本学国際交流センターと協働してチェンマイ大学病院看護師の研修を受け入れています。今年度は附属病院看護職員のチェンマイ大学病院への研修派遣支援を行っています。

今後とも、看護職者のキャリア支援と看護の質の向上に貢献できるよう努めて参りますので、当センター事業へのご理解・ご協力を賜りますようお願い致します。



現任教育研修の様子



看護実践・キャリア支援センタースタッフ

看護師の特定行為研修を行っています

特定行為研修制度とは、“医師の判断を待たずに特定行為を活用して、患者に対応する看護師を育成する制度”になります。本附属病院でも急性期コースとして、呼吸器関連等の7つの区分の科目の研修を受講することが可能です。

comment 高橋看護部長

一昨年10月から始まった看護師による特定行為研修制度ですが、現在では25都道府県40機関で研修を受けることができます。本学でも指定研修機関として承認され、1年間の研修期間を経て昨年末に第1期生が修了し、本年1月から第2期生が受講しています。

本学では急性期コースとして7区分について研修を実施していますが、新たに在宅コース4区分の開講に向けて準備が進んでいます。これからの看護職の地域貢献に大きな期待を寄せています。



1期生伊藤憲子さん(左から2人目)

comment 1期生 伊藤 憲子さん

特定行為研修を終了し、6ヶ月が経過しました。部署の体制が変わったこともあり、まだ実践には至っていませんが、救急科の医師と特定行為の実践に向けて準備をしているところです。また、2期生の演習を担当させていただき、改めて学習の継続が必要なることを実感しています。



2期生山室俊雄さん(左)

comment 2期生 山室 俊雄さん

病院ではその人のことを「患者」と呼びます。でも、それは仮の姿です。

その人は自分のホームへ帰ります。私たちはそれをチームで支えます。それにはこの研修が必要だと、まさに今実感しています。ぜひここへ！

4.5 4.6 新入生オリエンテーションを行いました

医学科では113名、看護学科では85名の新入生を対象に、平成29年4月5日から6日にかけて先生方による講話、授業や学生生活に関するガイダンスを行いました。

また、医学科では7日に、看護学科では6日のガイダンス終了後に新入生交流会を行い、学生は各グループに分かれて自己紹介を行うとともに先輩・後輩との交流を深めました。

医学科看護学科とも、新入生同士そして先輩との交流が深まり、新しい生活に向けて充実した時間を過ごせたのではないかと思います。



医学科



看護学科

6.1 奈良臨床漢方医学セミナーを開催しました

聖路加国際病院 リウマチ膠原病センター 副医長 津田篤太郎先生を講師にお迎えし、医師・歯科医師・薬剤師・看護師・医学生を対象に第1回「はじめての漢方」～ココをおさえれば漢方が理解できる～を開催しました。本セミナーは、4回シリーズで開催しており、1年をかけて漢方の考え方や理論を簡単にわかりやすくご理解頂く内容となっています。当日は、たくさんの先生方が受講され漢方の理論について熱心に耳を傾けていらっしゃいました。

次回の予定は、

9月28日(木) 18:30～20:00 厳橿会館 大ホール

「実技で学ぶ漢方」

～ココを診れば(触れば)漢方の所見がわかる～

多数の先生方のご参加をお待ちしております。



講演中の津田先生・講演の様子

6.16 奈良県立医科大学・同志社女子大学学術交流に関する包括協定に基づく講演会を開催しました

当講演会は本学と同志社女子大学が毎年交互に開催しているもので、今回は「男女共同参画社会」をテーマに、同志社女子大学現代社会学部谷直之教授が「現代社会における女性－ジェンダー・ギャップと女性の貧困－」、本学女性研究者支援センター須崎康恵マネージャーが「本学における男女共同参画の現状」と題して、それぞれご講演いただきました。

講演会では、社会学の観点から幅広く現代女性の現状や、本学を例に男女の働く現場について、それぞれの立場からわかりやすく説明をいただきました。



講演を行う谷教授



講演を行う須崎マネージャー

6.18

大学院看護学研究科のオープンキャンパス2017を開催しました

大学院看護学研究科のオープンキャンパスを平成29年6月18日に開催し、28名の参加がありました。

「看護学研究科長の挨拶」の後、看護学コース、助産学実践コースのコース別に、「コースの概要」、「個別相談会」、「先輩との座談会」、「施設見学」が行われました。参加者からは、『研究の方向性等の相談や、大学院での授業・生活について具体的話が聞けた。』などの感想が聞かれました。

平成30年度の入学試験は、8月24日(二次募集：12月1日^{*})に実施されます。

^{*}一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。



看護学研究科長挨拶

6.28
~30

BIO tech2017内アカデミックフォーラムに出展しました

東京ビッグサイトにおいて開催されたBIO tech2017内のアカデミックフォーラムで、化学の酒井宏水教授が「備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の開発」と題しプレゼン及びポスター展示を行いました。会場には多数の人が訪れ、活発な質疑応答や名刺交換等の交流が行われました。今後も人工赤血球製剤の実用化に向け、産学連携を推進していきます。



プレゼンを行う酒井教授

7.11

同志社女子大学と共催で院内コンサートを開催しました

本学と同志社女子大学とは、教育・研究・診療に関する相互支援などを目的として、学術交流に関する包括協定を締結しています。

この一環として、附属病院北玄関において同志社女子大学の学生による院内コンサートを開催しました。コンサートは入院患者の方々に大変喜ばれているとともに、演奏する学生のみならずにとっても学びの成果を他の人に生かすという貴重な体験の場となっています。



7.20

関西ICTイノベーションプロジェクト2017でSCOPE研究成果を発表しました

グランフロント大阪において関西ICTイノベーションプロジェクト2017～産学官連携によるSCOPE研究成果発表～があり、産婦人科学 小林浩教授が採択された総務省の戦略的情報通信研究開発事業(SCOPE)の革新的な技術シーズの研究結果報告として「循環器疾患患者を対象とした在宅ヘルスケア・システムの研究開発」と題しご講演されました。



発表を行う小林教授

Winner Report

5.11 看護功労者知事表彰

県立医大医師派遣センター 副センター長 橋口 智子
看護部 副部長 森田 冴子

平成 29 年 5 月 11 日、この度平成 29 年度看護功労者知事表彰を受賞させていただきました。

長く看護師として頑張ってきたのは、指導して下さった先

輩、共に働いた同僚や関係する多くの職種の方々の支えがあったのことに感謝しております。そして、患者さんから学ばせていただいた多くのことは私たちを成長させてくれましたし、看護することのやりがいや喜びを教えてくださいました。

今後は、私たちが得た良いものを後進の看護職に伝えつつ、患者さんを中心に関わる人々と共に学び、悩み、笑いながらより良い看護・より良い医療が実践できるよう努めてまいります。

(橋口・森田 談)



森田副部長（左）、橋口副センター長（右）

6.13 第 24 回中島佐一学術研究奨励賞の授賞式が行われました

今回の受賞者は、脳神経システム医科学の高橋弘雄講師、放射線医学の市橋成夫助教、消化器・総合外科学の赤堀宇広学内講師の 3 名で、受賞者にはそれぞれ賞状、記念品の楯及び研究奨励金が授与されました。

この賞は、故中島佐一名誉教授のご遺族からの寄附金を財源として、医学の学術研究に優れた業績をあげた本学の若手教員に対して授与し、さらなる研究の発展を奨励することを目的としています。

毎年、各所属に応募要項を案内していますので、若手教員の積極的なご応募をお待ちしています。



前列：左より高橋講師、細井学長、市橋助教、赤堀学内講師
後列：左より推薦者の坪井教授、吉川教授、庄教授

6.13 第 6 回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞について

当賞は、優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者を顕彰し、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成と男女共同参画の促進等に資することを目的とし、平成 23 年度に創設されました。今回は県民健康増進支援センターの富岡公子特任准教授に決定し、基礎第一講義室において授賞式が行われ、賞状、記念品の楯及び研究奨励金が授与されました。表彰後、富岡特任准教授より「地域在住高齢者の健康長寿を規定する要因」と題した記念講演が行われました。



左より車谷医学部長、富岡特任准教授、細井学長

6.17 平成 29 年度 厳樞学術奨励賞の表彰式が行われました

奈良県立医科大学医学部医学科同窓会総会において、平成 29 年度厳樞学術奨励賞の表彰式が行われました。この賞は、母校の発展



留学先の同僚たちと（右から 2 人目がご本人）

の一助とするため、海外での学術の研究、調査等をする者に対し、同窓会がその費用の一部を助成金として支給しているものです。

今回の受賞者は、眼科学講座の辻中大生助教で、平成 29 年 4 月 1 日から 1 年間、アメリカの Johns Hopkins 大学ウィルマー研究所網膜部門に留学されています。

6.19 平成 29 年度（第 1 回）若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定

在宅看護学 助教 羽場 香織
免疫学 講師 北島 正大
口腔外科学 助教 上田 順宏

平成 29 年度（第 1 回）若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、上記の 3 名の方々に決定しました。

この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増大させ、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、10 万円を上限とし往復運賃及び宿泊費相当額を助成しているものです。

年 3 回各所属に募集案内をしますので、積極的なご応募をお待ちしています。

6.28 特別共同研究助成事業及び若手研究者研究助成事業が採択されました

本学の研究の一層の推進を目指して行われている特別共同研究助成事業・若手研究者研究助成事業について、今年度は下記の事業が採択されました。特別共同研究助成事業には 11 件の応募があり、微生物感染症学矢野教授、消化器・総合外科学庄教授及び神経内科学杉江准教授が代表研究者である共同研究が採択され、矢野教授に 400 万円、庄教授、杉江准教授にはそれぞれ 300 万円が助成されます。また、若手研究者助成事業には 18 件の応募があり、下記の 10 名が採択され、それぞれ 50 万円が助成されます。

特別共同研究助成事業 採択者一覧

所属名	職	氏名	研究課題名	共同研究者
微生物感染症学	教授	矢野 寿一	脳腸相関からみた神経性無食欲症のサイロバイオティクス同定と新規治療法の開発	精神医学：助教 紀本創兵、精神医学：講師 芳野浩樹、免疫学：教授 伊藤利洋、感染症センター：准教授 笠原敬、放射線医学：助教 宮坂俊輝
神経内科学	准教授	杉江 和馬	ヒト神経細胞における C9orf72 関連 神経変性疾患の病態解明	生化学：教授 高澤伸、未来基礎医学：特任助教 森英一朗、組換え DNA 実験施設：准教授 杉浦重樹、精神医学：講師 牧之段学、神経内科学：助教 桐山敬生
消化器・総合外科学	教授	庄 雅之	難治性消化器癌における新たな早期診断および集学的治療法の開発	放射線医学：教授 吉川公彦、病理診断学：教授 大林千穂、分子病理学：教授 國安弘基、腫瘍センター：病院教授 神野正敏、疫学・予防医学：教授 佐伯圭吾、放射線医学：准教授 田中利洋、消化器・総合外科学：学内講師 赤堀宇広

若手研究者研究助成事業 採択者一覧

所属名	職	氏名	研究課題名
生理学第二	助教	吉田 純子	マウス ES 細胞の神経分化を制御する新規遺伝子の機能解析
神経内科学	助教	江浦 信之	オートファジー異常を原因とする難治性筋疾患の病態解明
整形外科	学内講師	重松 英樹	脊椎転移に対する早期治療介入のための画像診断連携診療システムの構築
皮膚科学	特任助教	御守 里絵	分子標的治療薬による皮膚障害における表皮自然免疫応答の研究
泌尿器科学	助教	井上 剛志	超高速リアルタイム PCR 法を用いた性感染症起炎菌の迅速診断
看護学科 在宅看護学	助教	栗田 麻美	がん終末期在宅療養者における訪問看護師の臨床判断の実際
輸血部	診療助教	酒井 和哉	ヒト動静脈血栓症における von Willebrand factor の ABO 血液型糖鎖が及ぼす影響
中央手術部	助教	位田 みつる	婦人科患者におけるアクチングラフによる客観的睡眠指標と術後回復度の関係
中央内視鏡部	助教	井上 隆	大腸内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) における遊離腫瘍細胞の生着能に関する研究
RI 実験施設	准教授	菓子野 元郎	放射線感受性を左右するがん特異的環境因子の解明

7.1 第 216 回日本内科学会近畿地方会で若手奨励賞 (優秀演題賞) を受賞しました

神経内科学講座 研修医 塩田 智

平成 29 年 7 月 1 日に大阪市で開催された伝統ある第 216 回日本内科学会近畿地方会において、創設され第 5 回目となる若手奨励賞セッション (口演発表) で、本学神経内科学講座の塩田智後期研修医が 50 題以上の中から選ばれ、優秀演題賞を受賞しました。演題「亜急性に発症し、当初慢性炎症性脱髄性多発神経炎 (CIDP) との鑑別を要した若年 POEMS 症候群の 1 例」は、当科と本学呼吸器・アレルギー・血液内科学講座との共同研究によるもので、希少難治性疾患である POEMS 症候群の末梢神経障害の病態機序を考える上で重要な症例検討でした。本学会の若手奨励

賞は、審査委員 20 人による厳正な選考により授与されたものです。塩田医師は、第 212 回に引き続き、2 度目の若手奨励賞受賞であり、今後の内科学診療および研究の益々の励みとなり、さらに研究発展に貢献してくれるものと考えます。



7.1 外科マスターの称号が付与されました

「頭頸部外科マスター」耳鼻咽喉・頭頸部外科学 准教授 上村 裕和

本学では「優れた外科手技を持つ医師」に対して「外科マスター」の称号を付与する制度を昨年 10 月に創設しました。その第 1 号として、本年 7 月 1 日に上記の者に称号を付与しました。

Winner Report

平成29年度 文部科学省科学研究費助成事業の決定

平成29年度 科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金〔文部科学省、独立行政法人日本学術振興会〕）が決定しました。平成29年6月30日現在の状況は表のとおりです。

	採択件数 (件)	採択額 (千円)	経費	
			直接経費	間接経費
平成29年度	198	355,990	273,970	82,020
平成28年度	200	371,033	285,710	85,323
平成27年度	185	340,304	262,184	78,120
平成26年度	190	327,390	252,300	75,090
平成25年度	176	361,350	289,900	71,450



※本表は6月30日時点の数字 (P4表2は4月1日以内定時の数字)

平成29年度 文部科学省科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）一覧

研究種目	教室名	職名	氏名	研究課題名	研究期間
新学術領域研究 (研究領域提案型)	脳神経システム医科学	教授	坪井 昭夫	脳梗塞モデルマウスを用いた病態時における適応回路シフトの機構解明	29～30
新学術領域研究 (研究領域提案型)	第二解剖学	講師	田中 達英	白質内オリゴデンドロサイトにみられるパターン形成とその起源	29～30
新学術領域研究 (研究領域提案型)	第一解剖学	教授	西 真弓	視床下部新規神経領域 PeFAH による意欲制御メカニズムの神経基盤の解明	29～30
基盤研究 (B)	整形外科	博士研究員	高木 都	刺激にตอบสนองして光る腸管神経の再生・新生機構の解明と制御の新たな展開	27～29
基盤研究 (B)	第一解剖学	教授	西 真弓	母子分離記憶の痕跡の可視化と成体での再活性化による想起	27～29
基盤研究 (B)	疫学・予防医学	講師	大林 賢史	光曝露がサーカディアンリズム関連疾患に及ぼす影響に関する縦断研究	27～30
基盤研究 (B)		医学部長	車谷 典男	青年・壮年・中年期の光曝露が生体リズムと睡眠の質に及ぼす影響に関する疫学研究	27～30
基盤研究 (B)	放射線腫瘍医学	教授	長谷川 正俊	神経系腫瘍幹細胞を標的とした重粒子線と抗 VEGF 抗体併用の有効性	27～29
基盤研究 (B)	看護学科 在宅看護学	教授	小竹久 実子	全喉頭摘出者の心理的適応促進のための RCT 看護介入効果検証	27～30
基盤研究 (B)	放射線腫瘍医学	特任教授	森 俊雄	DNA 損傷特異抗体を損傷除去修復薬に進化させる	28～30
基盤研究 (B)	脳神経システム医科学	教授	坪井 昭夫	成体新生ニューロンによる神経活動依存的な回路再編機構とその生理的意義の解明	28～30
基盤研究 (B)	第二生理学	教授	堀江 恭二	マウス ES 細胞の超未分化状態の解明と他種 ES/iPS 細胞の初期化への応用	28～30
基盤研究 (B)	分子病理学	教授	國安 弘基	Claudin-4 標的抗体によるがん治療法確立の基盤研究	28～31
基盤研究 (B)	第一内科学	教授	斎藤 能彦	Flt-1 系を介する心腎連関分子機序の解明：新規 LncRNA の関与	28～30
基盤研究 (B)	免疫学	教授	伊藤 利洋	呼吸器感染症がもたらす慢性呼吸器疾患増悪の分子基盤の解明	28～31
基盤研究 (B)	精神医学	講師	牧之段 学	自閉スペクトラム症における前頭前野機能の多面的解析とその正常化への試み	28～31
基盤研究 (B)	消化器・総合外科学	講師	山田 高嗣	膵島の生体内リプログラミング技術を用いた糖尿病の新規治療法の開発	28～30
基盤研究 (B)	病原体・感染防御医学	教授	吉川 正英	多能性幹細胞を用いた内耳有毛細胞の創生から細胞移植治療へ	28～31
基盤研究 (B)	化学	教授	酒井 宏水	酸化ストレスに対する防御機能を有する人工赤血球製剤の創製と体内評価	29～31
基盤研究 (B)	小児科学	教授	嶋 緑倫	血友病 A 分子病態の解明と VIII 因子高機能化に関する研究	29～31
基盤研究 (B)	看護学科 成人看護学	教授	石澤美 保子	在宅看護における医療関連機器圧迫創傷の予防および管理方法の構築	29～32
基盤研究 (C)	看護学科 公衆衛生看護学	准教授	入江 安子	妊婦の心理・社会環境要因と産後うつ、子どもの発達との関連 コホート研究	25～29
基盤研究 (C)	集中治療部	病院教授	井上 聡己	脳蘇生におけるアミオダロンの脳保護効果に関する研究	26～29
基盤研究 (C)	リハビリテーション科	講師	城戸 顕	筋再生の分子機構を指標とした骨転移患者に対する安全で効果的なリハビリテーション	27～29
基盤研究 (C)	哲学	准教授	池辺 寧	医学哲学を構築するための基礎づけとなるハイデガーの行為概念についての研究	27～29
基盤研究 (C)	第一解剖学	学内講師	東 超	幼年期のストレスによる記憶・学習障害と亜鉛の抗酸化作用に関する研究	27～29
基盤研究 (C)	脳神経システム医科学	講師	高橋 弘雄	新生嗅球介在ニューロンによる嗅覚行動の制御機構の解析	27～29
基盤研究 (C)	第二解剖学	准教授	辰巳 晃子	光遺伝学を用いたアストロサイト機能改変—基底核回路の人為的制御の実現に向けて	27～29
基盤研究 (C)	第三内科学	講師	浪崎 正	原発性肝細胞癌に対する薬物動態に基づく新規治療法および新規バイオマーカーの開発	27～29
基盤研究 (C)	眼科学	准教授	上田 哲生	白内障重症度が非視覚的光感受性に及ぼす影響：1100 名の高齢者調査	27～29
基盤研究 (C)	免疫学	助教	王寺 典子 (下嶋 典子)	HLA-F による新規腫瘍病理診断法の開発	27～29
基盤研究 (C)	公衆衛生学	准教授	赤羽 学	超高齢社会における社会政策のための医療・介護サービス需要の高精度推計	27～29
基盤研究 (C)	第一内科学	助教	岡山 悟志	循環器疾患患者の終末期医療に関する意思決定を支援する体制を構築するための研究	27～29

研究種目	教室名	職名	氏名	研究課題名	研究期間
基盤研究 (C)	中央臨床検査部	講師	水野 麗子	三次元右室分割モデルを用いた三次元的右室部位別心機能評価のための新手法の開発	27 ~ 29
基盤研究 (C)	医療安全推進室	准教授	友田 恒一	肺の気腫化と線維化はなぜ均等に起こらないのか? : 力学的異方性からのアプローチ	27 ~ 29
基盤研究 (C)	神経内科学	講師	形岡 博史	パーキンソン病とサーカディアンリズムに関する大規模調査	27 ~ 29
基盤研究 (C)	免疫学	講師	北畠 正大	脱リン酸化調節分子 G5PR による自己抗体産生細胞の分化制御機構の解明	27 ~ 29
基盤研究 (C)	感染症センター	准教授	笠原 敬	黄色ブドウ球菌菌血症の疫学の変遷と最適な治療法の解明	27 ~ 29
基盤研究 (C)	総合医療学	博士研究員	松井 英人	ウイルスベクターを使用しない安全な血友病遺伝子・細胞治療法の確立	27 ~ 29
基盤研究 (C)	小児科学	准教授	野上 恵嗣	凝固第Ⅷ因子活性化・不活化機構の解明と新規凝固・抗凝固薬の応用に関する基礎的研究	27 ~ 29
基盤研究 (C)	県立医大医師派遣センター	特任助教	矢田 弘史	インヒビター保有軽症血友病 A の凝血学的特性と新規治療戦略に関する基礎的研究	27 ~ 29
基盤研究 (C)	皮膚科学	講師	宮川 史	核成分に対する免疫寛容の破綻から SLE 発症に至る機序の解明	27 ~ 29
基盤研究 (C)	精神医学	准教授	安野 史彦	脳梗塞患者でのアルツハイマー型認知症の発症リスクに関する PET アミロイド画像研究	27 ~ 29
基盤研究 (C)	放射線医学	准教授	田中 利洋	腫瘍 IVR 治療における新規デバイスと治療法の開発	27 ~ 29
基盤研究 (C)	放射線医学	教授	吉川 公彦	下肢閉塞性動脈硬化症に対する新規生体吸収型バイオスタントの開発	27 ~ 29
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	教授	庄 雅之	難治性消化器癌に対する新たな集学的免疫治療戦略の開発	27 ~ 29
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	学内講師	若月 幸平	フィブリノーゲンによる癌の転移メカニズムの解明と新規癌治療への応用	27 ~ 29
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	助教	植田 剛	多能性幹細胞からの誘導腸管を用いた、生体内長期培養による腸管移植への試み	27 ~ 29
基盤研究 (C)	中央内視鏡部	病院教授	小山 文一	抗酸化作用を強化した十全大補湯を用いて放射線性腸炎を予防する	27 ~ 29
基盤研究 (C)	整形外科	教授	田中 康仁	重症脊髄損傷に対する自家組織細胞シートを用いた新規再生医療技術の開発	27 ~ 30
基盤研究 (C)	整形外科	准教授	朴木 寛弥	Translational applications of broad spectrum natural compounds and phytochemicals or their derivatives to the novel treatment strategy against sarcomas	27 ~ 30
基盤研究 (C)	泌尿器科学	教授	藤本 清秀	分子生物学プロファイリングによる膀胱上皮内癌治療効果と予後予測マーカーの探索	27 ~ 29
基盤研究 (C)	総合周産期母子医療センター 母体・胎児集中治療部門 (MFICU)	助教	赤坂 珠理晃	妊娠高血圧症候群の病態悪化に関わる脂肪組織の影響～新規培養法を用いた証明	27 ~ 29
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	博士研究員	岡本 英之	頭頸部癌におけるバイオマーカーとしての REG 遺伝子の作用機序の解明	27 ~ 29
基盤研究 (C)	眼科学	教授	緒方 奈保子	高齢者の視機能が QOL に及ぼす影響と加齢黄斑変性の病態解明	27 ~ 29
基盤研究 (C)	総合医療学	教授	西尾 健治	肝臓・腎臓における各種炎症病態形成への ADAMTS13 の関与	27 ~ 29
基盤研究 (C)	口腔外科学	博士研究員	杉浦 勉	即時荷重インプラントの骨界面における荷重伝達とオーバーロードの閾値の解明	27 ~ 29
基盤研究 (C)	口腔外科学	教授	桐田 忠昭	口腔癌細胞における酸素中性子捕捉療法による転移・浸潤能の抑制効果の検討	27 ~ 29
基盤研究 (C)	口腔外科学	准教授	山本 一彦	長鎖 non-codingRNA の制御を介した新たな口腔癌治療戦略	27 ~ 29
基盤研究 (C)	口腔外科学	学内講師	川上 正良	顔面の形態形成を制御する新規シグナルネットワークの解明	27 ~ 29
基盤研究 (C)	看護学科 成人看護学	講師	升田 茂章	限局性前立腺がん患者と家族の治療選択を支える外来看護ケアガイドラインの開発	27 ~ 29
基盤研究 (C)	女性研究者支援センター	講師	須崎 康恵	アカデミックキャリア男女間格差解消を目指した新たな医学部ジェンダー教育の構築	28 ~ 30
基盤研究 (C)	精神医学	博士研究員	岩坂 英巳	専門プログラムを用いた発達障害児支援者養成システム作りに関する研究	28 ~ 30
基盤研究 (C)	脳神経システム医科学	博士研究員	吉原 誠一	滑脳症及び精神発達遅滞原因遺伝子 Arx による介在ニューロン移動制御機構の解明	28 ~ 30
基盤研究 (C)	生物学	講師	小林 千余子	淡水棲マスキラゲの性決定の謎を追う	28 ~ 30
基盤研究 (C)	産婦人科学	講師	川口 龍二	簡便かつ安全に実施可能な術後静脈血栓塞栓症の管理基準の確立	28 ~ 30
基盤研究 (C)	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	夏の室温上昇は睡眠障害・夜間血圧上昇と関連するか? - カフレス脈波血圧を用いて -	28 ~ 30
基盤研究 (C)	第二内科学	助教	藤田 幸男	呼吸波形解析を活用した新たな COPD 治療戦略の構築 - 呼吸の安定化を目指して -	28 ~ 30
基盤研究 (C)	栄養管理部	病院教授	吉川 雅則	慢性閉塞性肺疾患の新規治療戦略: 全身性炎症の抑制をめざして	28 ~ 30
基盤研究 (C)	神経内科学	准教授	杉江 和馬	希少難治性筋疾患におけるオートファジーを介した蛋白分解機構と病態機序の解明	28 ~ 30
基盤研究 (C)	微生物感染症学	教授	矢野 寿一	カルバペネム産生大腸菌・肺炎桿菌感染症の新規治療法構築に向けた包括的研究	28 ~ 30
基盤研究 (C)	総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門 (NICU)	助教	中川 隆志	Thrombopas を用いた新生児 PC 制御機構の解明と新たな治療法の開発	28 ~ 30
基盤研究 (C)	総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門 (NICU)	病院教授	西久 保敏也	VWF/ADAMTS-13/F Ⅷ制御軸による極低出生体重児の脳室内出血の病態解明	28 ~ 30
基盤研究 (C)	病原体・感染防御医学	講師	王寺 幸輝	Wnt シグナルによる発毛の制御	28 ~ 30
基盤研究 (C)	皮膚科学	准教授	小豆 澤宏明	次世代の薬剤誘発リンパ球刺激試験の開発	28 ~ 30
基盤研究 (C)	精神医学	助教	鳥塚 通弘	シナプスプルーニング仮説に基づく iPS 細胞由来神経培養系での統合失調症病態解明	28 ~ 30
基盤研究 (C)	精神医学	講師	芳野 浩樹	社会経験で発達する前頭前野の局所的興奮・抑制性回路は治療ターゲットになるか	28 ~ 30
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	医員	右田 和寛	ユビキチン修飾系異常を介した癌進展機序の包括的解明と新規癌治療法の開発	28 ~ 30
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	助教	北東 大督	T 細胞不活化経路をターゲットとする大腸癌肝転移の新規免疫療法の開発	28 ~ 30
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	学内講師	野見 武男	肝切除後肝不全における ADAMTS13 の関与及び新規肝不全治療戦略の確立	28 ~ 30
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	学内講師	赤堀 宇広	Myosteatosis の病態解明による膵癌新規集学的治療戦略の開発	28 ~ 30
基盤研究 (C)	胸部・心臓血管外科学	教授	谷口 繁樹	ゼラチンシートの開発	28 ~ 30
基盤研究 (C)	脳神経外科学	講師	中川 一郎	ミトコンドリア ATP チャンネルを介した虚血耐性現象のメカニズム	28 ~ 30
基盤研究 (C)	脳神経外科学	学内講師	西村 文彦	EGFRvIII 特異的 CAR 導入免疫細胞を用いた膠芽腫治療法の開発	28 ~ 30
基盤研究 (C)	脳神経外科学	助教	松田 良介	超免疫不全マウスを用いた膠芽腫に対する免疫細胞および PD-1 阻害薬併用療法の開発	28 ~ 30
基盤研究 (C)	脳神経外科学	助教	田村 健太郎	術中皮質脳波におけるセフォラン濃度切替・高周波振動はてんかん焦点を推定可能か	28 ~ 30
基盤研究 (C)	集中治療部	助教	恵川 淳二	頭部外傷に対するミノサイクリンの脳への直接投与の有効性についての検討	28 ~ 30

平成 29 年度 文部科学省科学研究費助成事業の決定

研究種目	教室名	職名	氏名	研究課題名	研究期間
基盤研究 (C)	泌尿器科学	助教	中井 靖	膀胱癌細胞ミトコンドリア内における鉄利用メカニズムの解明とその臨床応用	28 ~ 30
基盤研究 (C)	泌尿器科学	博士研究員	石橋 道男	マクロファージの内在性レトロウイルス応答調節と血管保護による多発性嚢胞腎進展抑制	28 ~ 30
基盤研究 (C)	産婦人科学	博士研究員	成瀬 勝彦	炎症惹起因子を中心とした妊娠高血圧症候群の病態解明	28 ~ 30
基盤研究 (C)	産婦人科学	博士研究員	吉田 昭三	受容体を覆う「バンドエイド型」次世代ペプチド薬を用いた卵巣がん治療	28 ~ 30
基盤研究 (C)	産婦人科学	博士研究員	重富 洋志	子宮体部病変に対する極細複合型光ファイバー内視鏡診断と治療法の確立	28 ~ 30
基盤研究 (C)	総合周産期母子医療センター 母体・胎児集中治療部門 (MFICU)	助教	吉元 千陽	MR スペクトロスコピーを用いた鉄濃度測定による子宮内膜炎発癌リスクの新たな評価法	28 ~ 30
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	博士研究員	成尾 一彦	妊娠中における騒音ならびに分子標的薬の胎児聴覚への影響	28 ~ 30
基盤研究 (C)	めまいセンター	病院教授	山中 敏彰	重度平衡障害者に対する感覚代行リハビリテーションの持続し効果とその実用化	28 ~ 30
基盤研究 (C)	看護学科 基礎看護学	教授	松田 明子	外来 RA 患者の BIO 投与に関する臨床薬理学分野の看護実践教育プログラムの構築	28 ~ 31
基盤研究 (C)	看護学科 小児看護学	教授	川上 あずさ	自閉スペクトラム症児の母親がもつ「まもり」の検証と支援方法の構築	28 ~ 30
基盤研究 (C)	看護学科	非常勤講師	奥田 真紀子	看護診断を基盤とした在宅用標準看護計画の策定およびその有用性の検証	28 ~ 31
基盤研究 (C)	動物実験施設	准教授	久保 薫	シンバイオテイクスによる乾癬の予防・治療に関する研究	29 ~ 31
基盤研究 (C)	看護学科 基礎看護学	講師	青山 美智代	看護リテラシー教育としての看護過程を活性化化する IBL 教育プログラム開発	29 ~ 32
基盤研究 (C)	化学	助教	松平 崇	高分子鎖を介して多重連結されたヘモグロビン集合体の合成と体内酸素運搬機能の評価	29 ~ 31
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	特任講師	和田 佳郎	スポーツの種類や選手個人の特性を考慮した重力感受性トレーニング法の開発	29 ~ 31
基盤研究 (C)	第一解剖学	講師	堀井 謹子	視床下部新規領域が司る burying 行動と自閉症における常同行動との関係性	29 ~ 31
基盤研究 (C)	第一生理学	准教授	豊田 ふみよ	イモリ性フェロモン情報処理メカニズムの解明	29 ~ 31
基盤研究 (C)	化学	准教授	山本 恵三	カルバペネマーゼの活性上昇に関与するアミノ酸残基の網羅的特定と立体構造変化の解析	29 ~ 31
基盤研究 (C)	公衆衛生学	講師	野田 龍也	尺度開発理論と疫学の融合による行動嗜好のスクリーニングテストの統合的開発	29 ~ 31
基盤研究 (C)	県民健康増進支援センター	特任准教授	富岡 公子	どんな社会参加が健康長寿につながるのか?—地域前向きコホート研究より—	29 ~ 31
基盤研究 (C)	医療情報部	病院教授	玉本 哲郎	放射線治療の業務の標準的な見える化と遠隔での安全な治療実施支援法の確立	29 ~ 31
基盤研究 (C)	法医学	助教	工藤 利彩	新規メディエーター誘導型内皮依存性過分極因子を介するエタノールの血管機能調節機構	29 ~ 31
基盤研究 (C)	第二内科学	准教授	山内 基雄	多系統萎縮症に合併する睡眠呼吸障害の多様性—呼吸管理から生命予後改善をめざす—	29 ~ 32
基盤研究 (C)	第三内科学	教授	吉治 仁志	Drug repositioning による肝疾患進展抑制治療法の開発	29 ~ 31
基盤研究 (C)	第三内科学	医員	野口 隆一	NASH 発症進展に関わる腸内細菌の影響とエクオール の効果	29 ~ 31
基盤研究 (C)	輸血部	助教	早川 正樹	重症大動脈弁狭窄症に合併する消化管出血のフォンビレブランド因子による病態解析	29 ~ 31
基盤研究 (C)	第二内科学	講師	本津 茂人	肺線維症合併肺癌に対する制御性 T 細胞を標的とした新たな治療戦略の探索	29 ~ 32
基盤研究 (C)	疫学・予防医学	講師	秦野 修	質量分析イメージングと標的プロテオミクスによるステロイドホルモン産生異常の解析	29 ~ 31
基盤研究 (C)	微生物感染症学	講師	中野 竜一	薬剤耐性肺炎桿菌感染症の制御を目指した耐性菌出現機構の解明	29 ~ 31
基盤研究 (C)	小児科学	助教	武山 雅博	APC および PS による第 VIII 因子制御機構の解明および新規血友病製剤への応用	29 ~ 31
基盤研究 (C)	小児科学	助教	志田 泰明	血流下での血管内皮細胞の応答機構と血液凝固第 VIII 因子の機能発現	29 ~ 31
基盤研究 (C)	血友病治療・病態解析学講座	助教	松本 智子	後天性凝固異常症における凝固抑制機序の解明と新規治療法の創出	29 ~ 31
基盤研究 (C)	小児科学	助教	荻原 建一	フォン・ウィルブランド因子 D'D3 ドメイン—塩基多型の分子生物学的解析	29 ~ 31
基盤研究 (C)	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	ウイルス由来 microRNA に着目した DIHS の病態解明と新規診断法の開発	29 ~ 31
基盤研究 (C)	看護学科 人間発達学	教授	飯田 順三	小脳構造と協調運動および自閉スペクトラム症諸症状との関連解析	29 ~ 31
基盤研究 (C)	放射線医学	助教	西尾 福英之	ナノドラッグデリバリーシステムと分子イメージングを融合させた新規 IVR 治療の開発	29 ~ 31
基盤研究 (C)	脳神経外科学	准教授	本山 靖	前頭眼野 (FEF) 刺激による術中誘発眼球運動モニタリング (PEEM) の開発	29 ~ 31
基盤研究 (C)	整形外科	博士研究員	古川 彰	骨癒合性を付与した PEEK 製脊椎インプラントの研究	29 ~ 31
基盤研究 (C)	玉井進記念四肢外傷センター	准教授	河村 健二	生体内誘導骨形成膜とハイブリッド人工骨の融合による新規骨再建法の開発	29 ~ 31
基盤研究 (C)	整形外科	博士研究員	藤間 保晶	障害骨組織における再生遺伝子 Reg の発現動態の解析および骨再生促進法の開発	29 ~ 31
基盤研究 (C)	手の外科講座	教授	面川 庄平	細胞外マトリックス (ECM) シートを用いた難治性偽関節の低侵襲治療法の開発	29 ~ 31
基盤研究 (C)	泌尿器科学	学内講師	鳥本 一匡	膀胱における尿再吸収機構の解明 - 夜間頻尿治療への応用を目指す研究 -	29 ~ 31
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	新納 恵美子	HE4 と TFPI2 の組み合わせによる卵巣明細胞癌早期発見法	29 ~ 31
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	講師	西村 忠己	軟骨伝導補聴器のハウリングのメカニズムの解明とその防止	29 ~ 31
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	北原 礼	耳鳴発生時の内耳細胞内分子動態の解明と内耳を舞台とした新規治療法の開発	29 ~ 31
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	講師	太田 一郎	頭頸部が微小環境におけるがん幹細胞の EMT を介した浸潤・転移機構の解明	29 ~ 31
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	准教授	上村 裕和	再発頭頸部癌に対する酸素中性子捕捉療法標準治療化におけるバイオマーカーの探索	29 ~ 31
基盤研究 (C)	法医学	講師	粕田 承吾	急性アルコール中毒時の NETs 形成に及ぼす影響 - 敗血症増悪機構の解明 -	29 ~ 31
基盤研究 (C)	分子病理学	講師	笹平 智則	TANGO による口腔癌の転移前ニッチ形成機構の解明	29 ~ 31
基盤研究 (C)	口腔外科学	博士研究員	松末 友美子	ラマン分光法を用いた新たな早期口腔癌診断システムの開発	29 ~ 31
基盤研究 (C)	口腔外科学	博士研究員	玉置 盛浩	口腔がんに対するリンパ球と分子標的薬を併用した新規免疫細胞療法確立	29 ~ 31
基盤研究 (C)	看護学科 母性看護学	教授	五十嵐 稔子	分娩施設から遠方居住の妊産婦へのケアプログラム開発と電子母子手帳による効果の検証	29 ~ 31
挑戦的萌芽研究	第二解剖学	教授	和中 明生	グリア主導で神経回路活動は改変できるか?—三つ組みシナプス仮説の実証—	27 ~ 29
挑戦的萌芽研究	精神医学	講師	牧之段 学	社会的経験依存性前頭前野ミエリン形成と同部位シナプス形成との相関についての検証	27 ~ 29

研究種目	教室名	職名	氏名	研究課題名	研究期間
挑戦の萌芽研究	看護実践・キャリア支援センター	講師	渋谷 洋子	がんの子供が望むインフォームドコンセントのあり方に関する研究	27～29
挑戦の萌芽研究	看護学科 精神看護学	講師	奥田 淳	医療観察法に基づく地域処遇者の訪問看護に携わる看護師への支援方策の構築	27～29
挑戦の萌芽研究	組換えDNA実験施設	准教授	杉浦 重樹	損傷の修復に応じて修復を亢進させる損傷特異的的人工ドメインの応用	28～30
挑戦の萌芽研究	中央臨床検査部	病院教授	山崎 正晴	系統的エラープルーフ法を用いたB型肝炎再活性化対策の構築	28～29
挑戦の萌芽研究	看護学科 公衆衛生看護学	講師	小松 雅代	ICFを用いた神経・筋疾患難病患者の家族介護者へのレスパイトケアの指標開発	28～30
挑戦の研究(萌芽)	第一解剖学	教授	西 真弓	虐待が繰り返される神経基盤の解明	29～31
挑戦の研究(萌芽)	分子病理学	教授	國安 弘基	骨格筋で癌を阻害する一食品と運動のパッケージによるエネルギー代謝介入効果の検討	29～31
若手研究(B)	第一内科学	医員	中川 仁	ANP系のミネラルコルチコイド受容体を介する交感神経系抑制機序の解明	27～29
若手研究(B)	第一内科学	助教	松井 勝	PIGFを用いた慢性腎臓病における心血管病、腎障害進展の新規測定法と治療法の確立	27～29
若手研究(B)	眼科学	学内講師	西 智	着色眼内レンズがサーカディアンリズムに及ぼす影響に関する無作為化比較試験	27～29
若手研究(B)	口腔外科学	助教	上田 順宏	下顎骨再建手術シミュレーションシステムの開発	27～29
若手研究(B)	第二解剖学	助教	森田 晶子	脳室周囲器官は炎症情報を脳実質に伝える窓口である一血管周囲免疫細胞の役割一	28～29
若手研究(B)	薬理学	助教	京谷 陽司	睡眠時無呼吸による心血管病の発症・進展メカニズムの解明と予防法の確立	28～29
若手研究(B)	分子病理学	博士研究員	羅 奕	胃癌におけるドライバー遺伝子の変化に及ぼすヘリコバクター・ピロリの役割	28～29
若手研究(B)	放射線腫瘍医学	助教	若井 展英	FFFビームを用いたIMRTにおけるMLCの品質管理に関する研究	28～29
若手研究(B)	第二内科学	助教	鍛冶 孝祐	エビジェネティックアプローチによる肝線維化治療の開発	28～30
若手研究(B)	血圧制御学講座	助教	熊澤 拓也	心不全における核小体を介した細胞老化誘導機序の生理学的意義の解明	28～29
若手研究(B)	第二内科学	助教	熊本 牧子	肺線維症に対する間葉系幹細胞療法の試み・新規マウスモデルによる検討	28～29
若手研究(B)	精神医学	助教	松田 康裕	統合失調症の認知矯正療法による脳の白質微細構造および機能的結合の変化に関する検討	28～30
若手研究(B)	精神医学	助教	山内 崇平	臨界期でのニューレグリン1過剰シグナルがGABAニューロン発達へ与える影響の解析	28～29
若手研究(B)	放射線医学	助教	市橋 成夫	新期薬剤溶出型バイオカバードステントの開発	28～30
若手研究(B)	放射線医学	医員	佐藤 健司	肝臓に対するビースTACEにおけるIVR手技の標準化を目指した基礎研究	28～29
若手研究(B)	胸部・心臓血管外科学	助教	河合 紀和	ゼラチンを用いた医療用接着剤による気管支断端治療の検討	28～29
若手研究(B)	脳神経外科学	博士研究員	中澤 務	キメラ抗原受容体遺伝子変異iPS細胞由来T細胞の樹立と新規腫瘍治療法の開発	28～29
若手研究(B)	脳神経外科学	助教	竹島 靖浩	脳静脈虚血における内因性神経幹細胞応用の基盤研究	28～30
若手研究(B)	麻酔科学	助教	寺田 雄紀	新しい疼痛モデルマウスを用いた新規疼痛関連遺伝子の探索	28～29
若手研究(B)	泌尿器科学	助教	三宅 牧人	膀胱尿路上皮癌における制御性T細胞誘導に關するケモカインの同定と治療応用	28～29
若手研究(B)	泌尿器科学	医員	辰巳 佳弘	尿路上皮癌のheparanaseを介した癌進展メカニズムの解析と新規治療への応用	28～29
若手研究(B)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	岡安 唯	変調骨導超音波の知覚メカニズムと補聴システムについての研究	28～30
若手研究(B)	口腔外科学	医員	栗原 都	口腔癌転移の微小環境を規定する新規マーカーの探索	28～29
若手研究(B)	口腔外科学	医員	山本育功	抗癌剤治療中における味覚障害発生機序の解明と有効な治療法の開発	28～30
若手研究(B)	口腔外科学	学内講師	柳生 貴裕	細胞シート工学を応用した乳歯歯髄幹細胞による唇顎口蓋裂患者の新規顎裂治療法の開発	28～31
若手研究(B)	看護学科 成人看護学	助教	佐竹 陽子	救急領域における緩和ケア実践プログラムの開発	28～30
若手研究(B)	人工関節・骨軟骨再生医学講座	講師	稲垣 有佐	ナノコーティング技術により生体親和性および骨形成能を向上した人工靭帯の開発	28～29
若手研究(B)	数学	助教	川口 良	偏極トリーク多様体の断面不変量と整凸多面体の関係の研究	29～31
若手研究(B)	分子病理学	助教	谷 里奈	新規ゲムシタピン耐性機序の研究	29～30
若手研究(B)	微生物感染症学	助教	中野 章代	ワンヘルスアプローチで目指す薬剤耐性菌出現の原因究明と蔓延予防策の構築	29～31
若手研究(B)	精神医学	助教	松岡 究	アルツハイマー型認知症に伴う精神症状に関するドーパミン・セロトニン神経の統合的検討	29～31
若手研究(B)	精神医学	助教	紀本 創兵	統合失調症の脳神経スパイン密度低下におけるRNA結合タンパク質の制御機序の解明	29～30
若手研究(B)	精神医学	助教	井川 大輔	心的外傷後ストレス障害におけるマイクログリア由来BDNFの多角的解析	29～30
若手研究(B)	放射線医学	助教	正田 哲也	肝細胞癌に対するTACEにおけるSPG膜乳化新規W/Oエマルジョンの開発	29～30
若手研究(B)	放射線医学	医員	越智 朋子	リボソームを用いた腎毒性を低減させる新規造影剤の開発	29～30
若手研究(B)	中央放射線部	副主任室(技師)	藤谷 信将	FFFビームによる高線量率外部照射における治療効果の検討	29～31
若手研究(B)	放射線医学	医員	太地 良佑	超音波弾性画像を用いた動注化学療法に対する抗腫瘍効果判定の基礎研究	29～30
若手研究(B)	脳神経外科学	助教	輪島 大介	EPA・DHA、スタチンの脳静脈灌流障害による脳梗塞進展抑制効果の検討	29～30
若手研究(B)	麻酔科学	助教	西和田 忠	麻酔関連薬剤の長時間曝露が口腔癌細胞の生存に影響を与えるか?	29～31
若手研究(B)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	医員	伊藤 妙子	めまい平衡障害モデルマウスの開発と平衡リハビリテーションへの応用	29～31
若手研究(B)	眼科学	助教	宮田 季美恵	早期緑内障と生体リズムに関する大規模コホート研究	29～31
若手研究(B)	集中治療部	助教	園部 奨太	急性呼吸促進症候群におけるヒストンメチル化酵素Setdb2の役割と臨床的意義	29～31
若手研究(B)	口腔外科学	医員	上山 善弘	顎骨における放射線性骨壊死の制御を目的とした間葉系幹細胞の研究	29～31
若手研究(B)	看護学科 母性看護学	助教	岡山 真理	助産学修士課程で修士研究に取り組む成果と課題	29～31
若手研究(B)	看護学科 公衆衛生看護学	助教	堀内 沙央里	奈良県のHelicobacter spp.による環境汚染とヒトへの感染経路の解明	29～31
若手研究(B)	整形外科	医員	速水 直生	前腕骨における骨折・脱臼と靭帯損傷の関連	29～32
若手研究(B)	糖尿病学講座	助教	岡田 定規	日本人糖尿病患者における低用量アスピリン療法発症抑制効果に関する研究	29～30
若手研究(B)	救急医学	助教	奥田 哲哉	重症脊髄損傷に対するナノテクノロジーと細胞シート工学のハイブリッド治療法の開発	29～31
研究活動スタート支援	法医学	助教	勇井 克也	炎症血管におけるアルコールの機序～トロンボキサンA2による収縮反応の観点から～	28～29
奨励研究	中央臨床検査部	係長(技師)	山口 直子	CD38を介したオキシトシン制御軸による早産予防の基礎的研究	29～29

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

基金創設以来、平成29年6月までに累計1,358件のご寄附をいただいております。

なお、今号では、平成29年4月～6月にお申し込みいただいた方のご芳名を掲載させていただきます。

平成29年3月以前のご芳名については、本学「未来への飛躍基金」HP (<http://www.narmed-u.ac.jp/~hiyakukikin/>)に掲載しております。

【個人】

◆累計1,000万円以上

和田 邦雄 様

◆累計100万円以上1,000万円未満

五島 淳 様 平野 貞治 様

◆累計30万円以上100万円未満

石飛 和幸 様	一色 哲志 様	上羽 瑠美 様
宇野 健司 様	岡田 廣 様	木地 達也 様
坂本 一喜 様	田畑 尚一 様	玉井 良胤 様
東野 義之 様	内藤 雅敏 様	久永 浩靖 様
船戸 正久 様	丸山 祥代 様	丸山 亙 様
宮田 重樹 様	宮本 悦子 様	渡邊 愛子 様
渡邊 巖 様		

掲載を希望されないご寄附者様 7名

◆累計10万円以上30万円未満

上田 文代 様	大西 健太 様	岡谷 亨 様
奥田 浩嗣 様	末吉 智 様	中田 靖子 様
南淵虎次郎 様	安田 究 様	

掲載を希望されないご寄附者様 7名

◆累計10万円未満

佐野 正治 様	中田 康紀 様	福山 麻里 様
前川 健二 様	横山 貴司 様	

掲載を希望されないご寄附者様 8名

◆金額の公表を希望されないご寄附者様

岡田 定規 様	葛本 裕子 様	葛本 幸康 様
小濱 奈美 様	小山タミエ 様	佐本 憲宏 様
杉田 雅彦 様	田中 祥介 様	長田 憲和 様
根津 麻里 様		

【法人・企業】

◆累計100万円以上1,000万円未満

一般財団法人 弘済会 様

掲載を希望されないご寄附者様 1法人

◆累計50万円以上100万円未満

公立大学法人 奈良県立医科大学労働組合 様

◆累計10万円以上50万円未満

一般社団法人 奈良県臨床検査技師会 様

◆累計10万円未満

掲載を希望されないご寄附者様 1法人

(五十音順)

平成28年度「未来への飛躍基金」の実績報告について

日頃は「未来への飛躍基金」に対しご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

平成28年度の「未来への飛躍基金」を活用させていただいた各種事業の内容等が確定しましたので、紹介します。お陰様で本学を支えている教職員や学業に励む学生諸君が頑張りがいのある、能力を存分に発揮できる環境づくりが着実に進みつつあります。

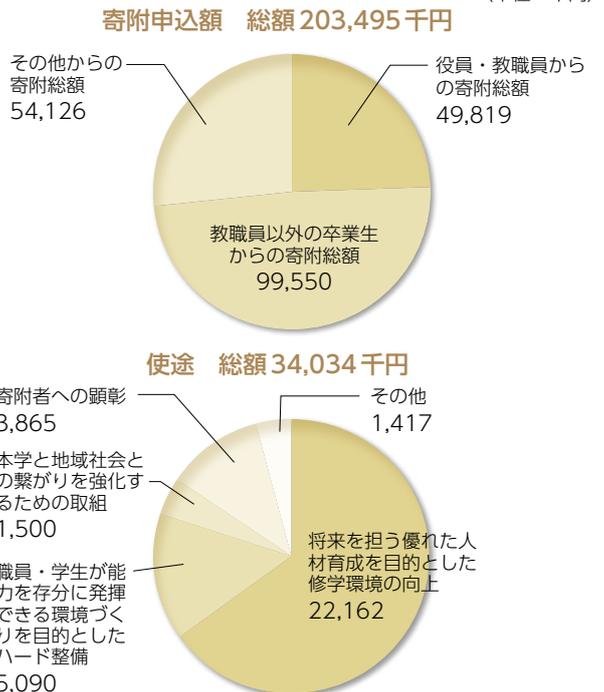
今後ご協力いただいた皆様のご厚志を教育・研究環境の充実など基金の趣旨に沿って、有意義に活用させていただき所存でございますので、引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

【主な取組】

- 将来を担う優れた人材育成を目的とした修学環境の向上
 - ・ 大学院医学研究科博士課程入学者に対する奨学金
 - ・ リサーチ・クラークシップ (国内外研究室での実習) への助成
 - ・ 研究室配属実習への助成 ・ コンソーシアム実習への助成
 - ・ 臨床実習への助成 ・ クラブ活動への助成
 - ・ ADVANCED CLINICAL ENGLISH II (海外留学) への助成
- 職員・学生が能力を存分に発揮できる環境づくりを目的としたハード整備
 - ・ 大講堂の改修 (プロジェクト更新等)
- 本学と地域社会との繋がりを強化するための取組
 - ・ 健康長寿イベント事業への助成
- 寄附者への顕彰
 - ・ 寄附者銘板の設置等

平成28年度「未来への飛躍基金」の実績

(単位：千円)



大学院入試日程

平成 29 年度 秋入学

大学院医学研究科（博士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
地域医療・健康医学専攻	若干名	平成 29 年 7 月 21 日（金）まで	平成 29 年 8 月 7 日（月）	平成 29 年 9 月 12 日（火）
生体情報・病態制御医学専攻				
生体分子・機能再建医学専攻				

- 社会人^{*}の入学も可能です。● 社会人には、長期履修制度を設けています。
- 入学金半額免除制度（平成 28・29 年度入学者に限り適用）、大学院修学資金貸与制度（要件を満たした場合返還免除）があります。

平成 30 年度

大学院医学研究科（博士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
地域医療・健康医学専攻	7	第一次募集 平成 29 年 10 月 16 日（月）～10 月 20 日（金）	第一次募集 平成 29 年 11 月 6 日（月）	第一次募集 平成 29 年 12 月 12 日（火）
生体情報・病態制御医学専攻	13	第二次募集 平成 30 年 1 月 9 日（火）～1 月 12 日（金）	第二次募集	第二次募集
生体分子・機能再建医学専攻	20		平成 30 年 1 月 29 日（月）	平成 30 年 3 月 6 日（火）

- 社会人^{*}の入学も可能です。● 社会人には、長期履修制度を設けています。● 一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。
- 平成 30 年度秋入学の実施については未定です。● 大学院修学資金貸与制度（要件を満たした場合返還免除）があります。

大学院医学研究科（修士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学専攻	5	第一次募集 平成 29 年 10 月 10 日（火）～10 月 13 日（金）	第一次募集 平成 29 年 11 月 6 日（月）	第一次募集 平成 29 年 12 月 12 日（火）
		第二次募集 平成 30 年 1 月 15 日（月）～1 月 19 日（金）	第二次募集 平成 30 年 1 月 29 日（月）	第二次募集 平成 30 年 3 月 6 日（火）

- 社会人^{*}の入学も可能です。但し、平成 30 年 3 月 31 日までに概ね 1 年以上の実務経験を有することが必要です。
- 一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。

大学院看護学研究科（修士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
看護学 看護学コース専攻	5	第一次募集 平成 29 年 7 月 24 日（月）～7 月 27 日（木）	第一次募集 平成 29 年 8 月 24 日（木）	第一次募集 平成 29 年 9 月 5 日（火）
看護学 助産学実践コース専攻	5	第二次募集 平成 29 年 10 月 23 日（月）～10 月 26 日（木）	第二次募集 平成 29 年 12 月 1 日（金）	第二次募集 平成 29 年 12 月 12 日（火）

- 社会人^{*}の入学も可能です。但し、平成 30 年 3 月 31 日までに概ね 1 年以上の実務経験を有することが必要です。
- 社会人には、長期履修制度を設けています。
- 本学学部からの進学者、奈良県内に住所を有し要件を満たす者については入学金が免除される入学金免除制度があります。
- 助産学実践コースについては、修学中は学業に専念できる者としてします。● 一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。

※社会人とは医療・保健・福祉施設、教育研究機関、企業、官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者です。

【問合せ先】 教育支援課／医学研究科担当：内線 2213 看護学研究科担当：内線 2390

公開講座情報

平成 29 年度前期奈良県立医科大学公開講座「くらしと医学」

開催日：平成 29 年 9 月 16 日（土）13：00～15：30

場所：橿原文化会館大ホール

概要：テーマ「脳卒中 ～救急搬送からリハビリまで～」

講演者：救急医学 奥地 一夫 教授 他

対象：県民

定員：1,000 名

備考：事前申し込み不要 参加無料

問合せ先：県民健康増進支援センター 内線：2297

Media Listing Information

メディア掲載情報をお寄せください～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要	
2017年	4月28日	産経新聞 医療技術センター 主査 梶原 聡司	人命救助に尽力し、紅綬褒章を受章	
	5月24日	科学技術振興機構 配信サイト 「サイエンスチャンネル」 産婦人科学 教授 小林 浩	総務省SCOPE採択事業「循環器疾患患者を対象とした在宅ヘルスケア・システムの研究開発」における「在宅療養患者再発防止・QOL向上支援システム」を紹介。	
		朝日新聞	救急医学 講師 福島 英賢	ドクターヘリについてコメント
	6月9日	奈良新聞	皮膚科学 教授 浅田 秀夫	带状疱疹についてコメント
	7月2日	読売新聞	産婦人科学 教授 小林 浩	婦人科がんについてコメント
	7月8日	奈良テレビ 「県民だより奈良 ならいいね！」	内科学第三 学内講師 赤羽 たけみ	肝炎検査についてコメント
	7月12日	毎日新聞	公衆衛生学 教授 今村 知明	消費者委員会・食品表示部会でコメント

編集後記

皆様からのご協力をいただき第61号学報を発行する事ができました。ご協力・ご支援頂いた皆様に深く感謝いたします。

さて、本誌にH28年度の本学の決算が報告されていましたが、厳しい経営状況が続きます。改めて経費節減等の意識を持ち、日々の業務に取り組みたいと思います。

